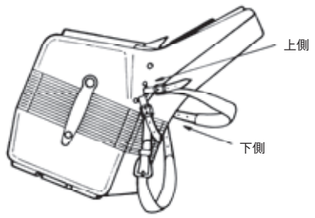
■ 演奏の準備

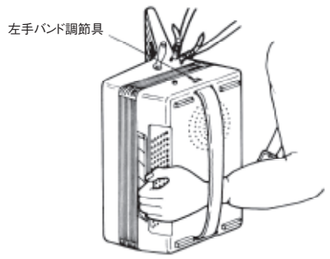
1 背負いバンドの取付け

背負いバンドの肩当(ふくらみ)に近い方の端をアコーディオンの上側の金具に取り付け他の端は下側の金具に取り付けます。



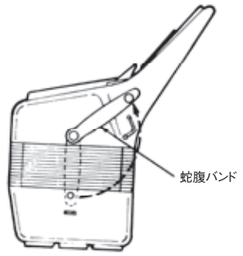
2 左手バンドの調節

左手をバンドに通し、蛇腹の開閉操作が円滑に行えるように左手バンド調節具でバンドの張りを調節します。



3 蛇腹バンド

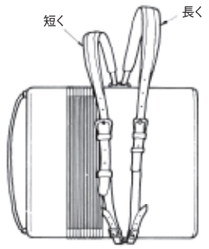
演奏するときには蛇腹バンドの下側の止め金をはずし、半回転させて鍵盤側の止め金に納めます。



4 背負い方

演奏者の体に合わせて右手で鍵盤がひきやすいようにバンドの長さを調節します。左手で蛇腹を操作したとき楽器がぐらつかないようにしっかりと固定します。

※左側のバンドを右側より少し短くすると鍵盤が身体のやや中央よりになり、弾きやすくなります。



アコーディオン取扱説明書

この度はスズキアコーディオンをお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。
本製品を安全に、そして末永くご使用していただくため、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった取扱説明書はなくさないよう、大切に保管してください。

■ アコーディオンの種類

合奏用 スチールリード、2列笛で美しい音色、豊かな音量です。持ち運びが自由ですから野外活動にも活用できます。合奏用アコーディオンA−34シリーズはソプラノ、アルト、テナー、バスと音域が分かれておりアンサンブル、楽器合奏に最適です。

独奏用 左手のベース部のボタンの数によりA−80、A−120の2種類あります。右手でメロディ、左手で和音・ベースを演奏できます。独奏・伴奏・合奏と広い用途があります。持ち運びが自由ですから野外活動などにも利用できます。

合奏用 **A-34** シリーズ 仕様

- スチールリード 34鍵 2列笛
- ソフトケース・背負バンド付

品番	鍵数	音域
A−34S ソプラノ	34	c^1～a^3
A−34A アルト	34	f～d^3
A−34T テナー	34	F～d^2
A−34B バス	34	F_1～d^1

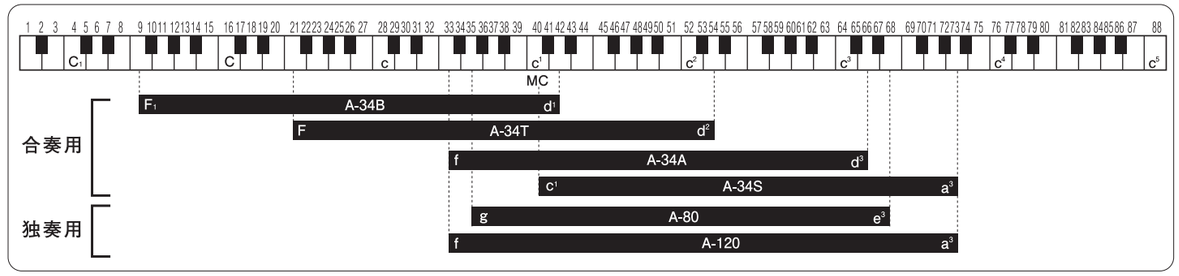
独奏用 **A-80** 仕様

- 34鍵 3列笛 g～e^3
- メロディースイッチ5コ
- 80ベース・ベーススイッチ3コ
- ハードケース・背負バンド付

独奏用 **A-120** 仕様

- 41鍵 4列笛 f～a^3
- メロディースイッチ11コ
- 120ベース・ベーススイッチ5コ
- ハードケース・背負バンド付

■ アコーディオンの音域表



株式会社 鈴木楽器製作所 〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-12 ☎(053)461-2325

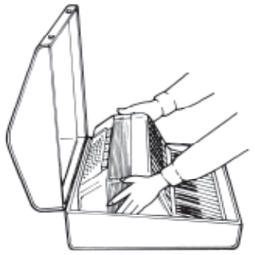
http://www.suzuki-music.co.jp/ メールでのお問い合わせは info@suzuki-music.co.jp

3104-5C-APR-MM-013-G

■ 楽器の保存と取扱い

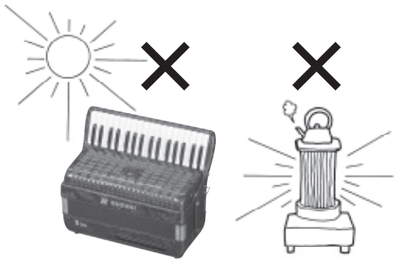
1 使用しないときは必ずケースに入れましょう

ケースからの出し入れのときは、本体を図のように両手で支えて、ていねいに扱いましょう。ほこり、湿気を防ぐためにやわらかい布に包んで入れておくのが更によいでしょう。



2 湿気・過熱はアコーディオンの大敵です

湿度が高くなると皮・木材などが膨張して各部の確実な動作を妨げます。またリードが錆びることがあります。温度が高くなるとリードプレートを固定しているワックスが軟化します。ですからアコーディオンを日光の日射しの強いところにさらしておいたり、暖房器の近くに置いたりしないで下さい。



3 急激な振動を与えないようにしましょう

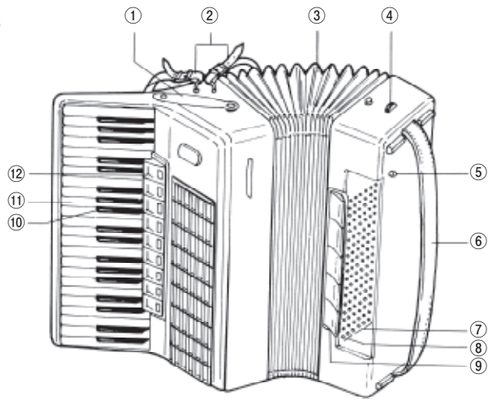
アコーディオンは非常に精密に組み立てられていますので、乱暴に扱うとリードプレートを固定しているワックスがゆるむなどの故障が起こりがちです。

4 寒い部屋から暖かい部屋に移ったときには

温度差が大きいときにはケースからアコーディオンを出し、空気ボタンを押したままで蛇腹を数回往復させて内部の空気を入れかえ、しばらくしてから使用します。このとき楽器が湿ることがありますが、しばらく放置すれば細かい水滴は自然に消えるものです。

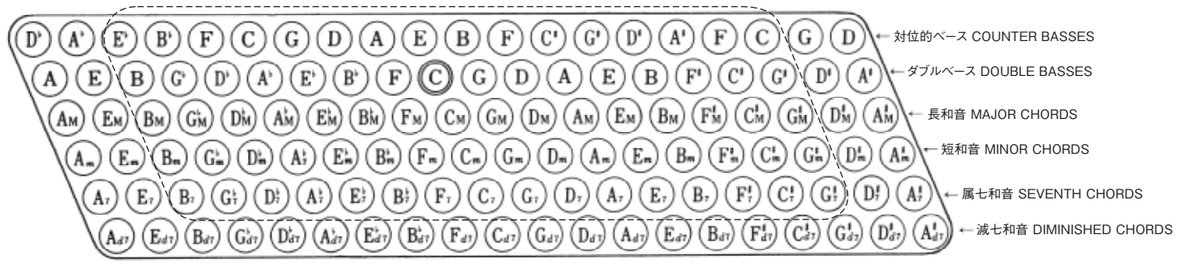
◎もしも故障のときは、お買上げの店または当社営業所に御相談下さい。

■ 各部の名称



① 蛇腹バンド
② 背負バンド
③ 蛇腹
④ 左手バンド調節具
⑤ 空気ボタン
⑥ 左手バンド
⑦ コードボタン
⑧ ベースボタン
⑨ ベーススイッチ
⑩ 黒鍵
⑪ 白鍵
⑫ メロディースイッチ

■ 独奏用ベースセクション配列表



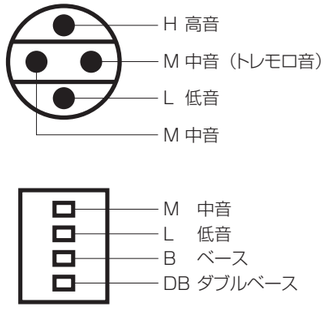
A-120　　A-80

独奏用アコーディオンには左手で操作するボタンがあります。ベースセクションの1つのボタンを押すだけで精巧なアクションのはたらきにより4音～8音が同時に発音し美しい和音を構成します。たとえば、中央Cのベースボタンの列はCが根音となる和音で各ボタンの音は右の表のようになっています。

	コードボタン	発音する音名
Ⓔ	対位的ベース	E、e、e¹、e²
Ⓒ	ダブルベース	C、c、c¹、c²
$Ⓒ_M$	長　和　音	c¹、c²、e¹、e²、g、g¹
$Ⓒ_m$	短　和　音	c¹、c²、e♭¹、e♭²、g、g¹
$Ⓒ_7$	属 7 和 音	c¹、c²、e¹、e²、g、g¹、b♭、b♭¹
$Ⓒ_{d7}$	減 7 和 音	c¹、c²、e♭¹、e♭²、a、a¹

■ メロディースイッチとベーススイッチ

スイッチの切替えにより笛列のいろいろな組み合わせをを選ぶことができ、深みのある重厚な音色や、また明るくはりのある軽快な音色など、曲想や雰囲気に合った音色を選ぶことができます。より高度な演奏テクニックに対応できる魅力ある便利な機能です。



《メロディースイッチ》の説明

鍵盤の音色はメロディースイッチにより切り替えることができます。アコーディオンの内部では、鍵盤用のリードは、高音(H)・中音×2(M)・低音(L)の4列(A-80は3列)が付いています。メロディースイッチでこれらの発音するリードを切り替えることにより、音色が変わります。

《ベーススイッチ》の説明

ベースボタン（またはコードボタン）を押したときの音色を切り替えるスイッチです。ベースボタンの内部には、中音・低音・ベース・ダブルベースの4列のリードが付いています。ベーススイッチでこれらの発音するリードを切り替えることにより、音色が変わります。